

仲山貴金属鍍金

微細パイプ製造・はっ水加工

めっき技術医療に応用

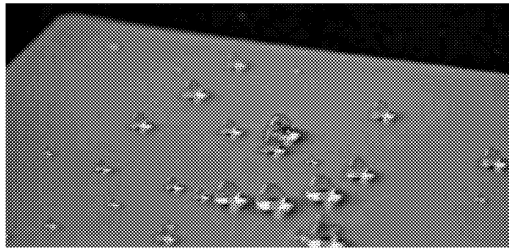
金属部品などの表面処理を手掛ける仲山貴金属鍍金（浜松市）は医療・産業用機器などに広く応用できる2つの新たなめっき技術を開発し、大手医療機器メーカーなどと実用化に向けた共同開発を始めた。独自技術を生かした新たな取引先の開拓により、売り上げ拡大を目指す。

仲山貴金属鍍金は様々な独自のめっき技術を持つ

貴金属マイクロパイプ	めっきしたワイヤを引き抜くことで薄肉や極細のパイプ状貴金属部品
超はっ水化	平面・曲面を問わず、様々な素材を貴金属めっきで超はっ水化
多孔質金属	複雑な凹凸構造のめっきにより、小さい体積で大きな表面積を持つ部品

1つはワイヤにプラチナや金などの貴金属めっきを施し、その後ワイヤを引き抜いてめっき膜を微細なパイプ状の部品とする「貴金属マイクロパイプ」技術。切削で作るパイプと比べ、穴の内面が真円に近く、きれいな溝、外径0・025ミリまで対応できる。例えば、医療用として血管などに入れるカテーテルに組み込み、体外のX線モニターなどで位置

機器大手と実用化急ぐ



を確認しやすくする薄肉のプラチナ製パイプ部品を従来より割安に製造できる。

さらに、ハスの葉の表面に似た構造の貴金属めっきにより、水をはじくはっ水機能を金属に付加

する「超はっ水化」技術も開発した。マイクロパイプと組み合わせることで、「パイプ出入り口の表面張力を抑えられる」（仲山昌宏社長）という。ごく少量の液体を正確に測り取ることが可能になる。

これらの技術を使い、複数の大手医療機器メーカーなどと実用化に向けた試験を始めた。海外メーカーからの開発依頼も増えている。

仲山貴金属鍍金はこれまで、半導体検査装置など電子機器向け部品の貴金属めっき加工を手掛けてきた。特殊な加工を担う中で、複雑な立体の表面を高精度で均一に処理するなど「独自のめっき技術を蓄積してきた」（仲山社長）。

現在は部品加工の受注が主力だが、今後はめっき技術の実用化を目指す

き膜でつくるマイクロパーツなど「高付加価値の部品の製造を事業の柱に育てる」（同）考えなど共同で研究しながら受注を伸ばし、2024年3月期には売上高10億円を目指す。

同社の年間売上高はここ数年、1億〜2億円程度で推移している。摩耗